

## (A) 研究成果発表 成果報告書

活動名称「DNA metabarcoding analysis of the diet of the Harvest mouse」

慶應義塾大学 政策・メディア研究科  
後期博士課程 3 年 湯浅 拓輝

### 1. 学会の情報

学会名：The 10th EAFES International Congress

日程：2023/7/17 ~ 2023/7/20

会場：Ramada Plaza Jeju (韓国・済州島)

### 2. 活動の目的

本活動の目的は、韓国の済州島で開催された「The 10th EAFES International Congress」において、「DNA metabarcoding analysis of the diet of the Harvest mouse」という研究テーマでポスター発表を行うことであった。本テーマでは、DNA メタバーコーディングを用いた解析により、カヤネズミという草原性のネズミ類の食性内容の把握を試みた。今回の発表では、本種が既存の手法で確認されていたよりも多くの植物・昆虫種を餌として利用している可能性があること、環境ごとに食性の傾向が異なること、頻繁に利用される餌生物種の存在が確認されたことなどを中心に成果を発表した。

対象のカヤネズミは大陸系の種であり、中国や韓国も本種の生息域である。東アジア圏の生態学分野を扱っている本会議には、中国や韓国の研究者が多く参加するため、本研究に対する意見交換をする場として、非常に良い機会だと考えた。また、本研究で用いた DNA メタバーコーディングによる食性解析手法は、近年生態学分野においてもよく用いられるようになってきており、手法的な視点からも意見が聞けるものと期待して、本会議への参加を決めた。

### 3. 活動の成果

ポスター発表のコアタイムはそれほど長い時間ではなかったが、その中で行ったディスカッションや質問いただいた内容はとても有意義なものとなった。東アジア圏の生態学全般の国際会議であり、取り扱っているテーマも多様であったため、ポスターの聴講者の専門や興味分野も多様だった。その一部を抜粋すると、分子生物学的な研究を行っている方からは主に DNA のサンプリング方法に関する質問、ネズミや哺乳類を専門としていて生態的な観点から質問いただいた方からは「餌生物のどの部位を食べているのかわかるか？」や「環

境ごとに食性の傾向が異なるのはなぜか？」などの質問、食性解析を行っている方からは手法的な観点から「目視で餌生物の判別を行うのが難しい生物だからこそ本手法が生きてくるのでは」といった意見をいただいた。今回のテーマでの学会発表は初めてだったので、どういった部分に関心を持ってもらい易いのか、質問が生じやすいのか、また、国が違うからこそ生じる疑問（対象生物の生息環境の違いなど）などが今回の国際会議での発表を通して学ぶことができた。

研究テーマや結果について興味深いという意見もいただいたので、それは自信に繋がった。また、過去に研究対象の1つでカヤネズミを扱ったことがあるという韓国の研究者の方の意見も聞けたため、大変参考になった。



写真：会場の様子（左）と掲載したポスター（右）

#### 4. 今後の展望

今回の国際会議で得られた意見や質問を参考にしながら、本研究の成果をまとめて論文を進めていきたい。

#### 5. 謝辞

本学会参加にあたり、資金面で援助いただいた慶應 SFC 学会に厚く御礼申し上げます。